

科目名	フィジカルアセスメント Physical Assessment
授業形態	講義、演習
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春BC学期 月曜1・2時限
実施場所	共同利用棟B 206
単位数	2単位
担当教員名	日高紀久江 Hidaka Kikue 森 千鶴 Mori Chizuru 小澤 典子 Ozawa Noriko 菅谷 智一 Sugaya Tomokazu 萩野谷浩美 Haginoya Hiromi 山下美智代 Yamashita Michiyo
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	随時(事前に連絡したうえで訪問すること)
授業の到達目標 (学習成果)	1. 器官系統別の基本的なアセスメントの視点について説明できる。 2. 臨床判断に必要なフィジカルイグザミネーションを実施できる。 3. 臨床判断に必要な検査法ならびに検査値について理解できる。 4. 複雑な健康問題を有する臨床事例を対象に、病態に関する知識、フィジカルイグザミネーション、検査値等に基づき、対象の身体・精神面で生じている状態の解釈ならびに必要なケアに関する判断ができる。
他の授業科目との関連	本科目は病態生理学、臨床薬理学とともに専門看護師教育課程用に構成されている。
履修条件	e-learning を全回受講すること。また講義・演習は2/3以上の出席をもって単位取得が可能とする。
授業概要	複雑な健康問題を持った対象の身体状況を診査し、臨床判断を行うために必要な知識と技術について学び、専門看護師として臨床判断を行うために必要な知識、技術を深める。
キーワード	フィジカルイグザミネーション (physical examination)、フィジカルアセスメント (physical assessment)、臨床診断 (clinical judgement)
授業計画	1 e-learnig 医学的診断の考え方(徳田安春) 2 e-learnig 呼吸器系のアセスメント(徳田安春) 3 e-learnig 循環器系のアセスメント(徳田安春) 4 e-learnig 消化器系のアセスメント(徳田安春) 5 e-learnig 運動系のアセスメント(徳田安春) 6 e-learnig 中枢神経系・感覚系のアセスメント(徳田安春) 7 e-learnig 生殖器系のアセスメント(松本光司) 8 e-learnig 痛みのアセスメント(福田妙子) 9 e-learnig 精神症状のアセスメント(新井哲明) 10 6月10日 看護における医学的診断の有用性(日高) 11 6月17日 演習① 視診・触診・打診・聴診・血圧測定 I (萩野谷) 12 6月17日 演習② 視診・触診・打診・聴診・血圧測定 II (萩野谷) 13 7月01日 演習③ 複雑な症状を訴える患者のアセスメント I (山下) 14 7月01日 演習④ 複雑な症状を訴える患者のアセスメント II (山下) 15 7月08日 演習⑤ 器官系統別身体徴候と検査リスト I (小澤) 16 7月08日 演習⑥ 器官系統別身体徴候と検査リスト II (小澤) 17 7月22日 演習⑦ 医学的診断過程における看護師の役割と機能(森、菅谷) 18 7月22日 演習⑧ 医学的診断結果に基づいた看護援助(発表・討議)(森、菅谷) 19 7月29日 演習⑨ 適切に症状を訴えられない患者のアセスメント I (日高) 20 7月29日 演習⑩ 適切に症状を訴えられない患者のアセスメント II (日高)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	6/10までにe-learnigの視聴を終わること。また、e-learnigでは看護に重要な点を適切にとらえ、必要な箇所は十分に理解できるまで何度も繰り返し聴講すること。疑問を感じている点については、積極的に教科書を調べたりすることにより、理解を深める。さらに、関心領域に当たる診療科の症例検討会、研修会等への参加が可能であれば、それらに積極的に参加すること。

成績評価方法	<p>評価方法と評価配分 e-learning(40%)、講義・演習(50%)、課題レポート(10%) 第11～20回において課題をmanaba上に提示する。各課題の指定される内容に準じて、資料や手技を用いて発表を行う。発表後には各課題に関するレポートを課す。</p> <p>評価基準 1 複雑な身体症候から医学的診断に至る過程に伴う、診察及び検査の目的、方法、読解例について器官系統別に理解し、診察方法が実施でき、発表できる。 2 複雑な健康問題を持った対象の身体徴候を診査し、診断のために必要な医師による診察と検査をリストアップすることができる。 3 医学的診断過程とその結果を他職種間で共有し利用する方法を習得できる。</p> <p>上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A～A+ 各項目の課題内容を適切に理解し、資料や手技を用いて十分に説得力をもって説明できる。 B 各項目の課題内容を適切に理解し、資料や手技を用いて的確に説明できる。 C 各項目の課題内容を適切に理解し、資料や手技を用いて説明できる。 D 各項目の課題内容が理解できない、または課題内容について資料や手技を用いて説明ができない。</p>
教材・参考文献・配布資料等	特に指定しない。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	1～9回までeラーニングによる授業であるため、視聴に必要な手続きをとること。